



そこで誤り訂正復号を行うことで干渉の影響を低減しますが、1つ問題があります。誤り訂正復号には尤度と呼ばれる伝送ビット（0または1）の確からしさの情報が用いられますが、干渉波の受信電力が大きい場合、抑圧サブキャリアに対して絶対値の大きな尤度が誤って算出されてしまい、適切ではない誤り訂正処理をすることになります。

そこで受信機において、抑圧サブキャリアで算出する尤度を最も曖昧な値に置換する、FEC尤度マスクを適用します。

最も簡単な例ではゼロ置換となります。この簡単な処理により、正しく伝送されたサブキャリアを活用した誤り訂正能力を借りて、任意の干渉波の影響を低減することが可能となります。

計算機シミュレーションの結果、提案技術により周波数利用効率を1.2倍強に改善できることを確認しました（図2）。

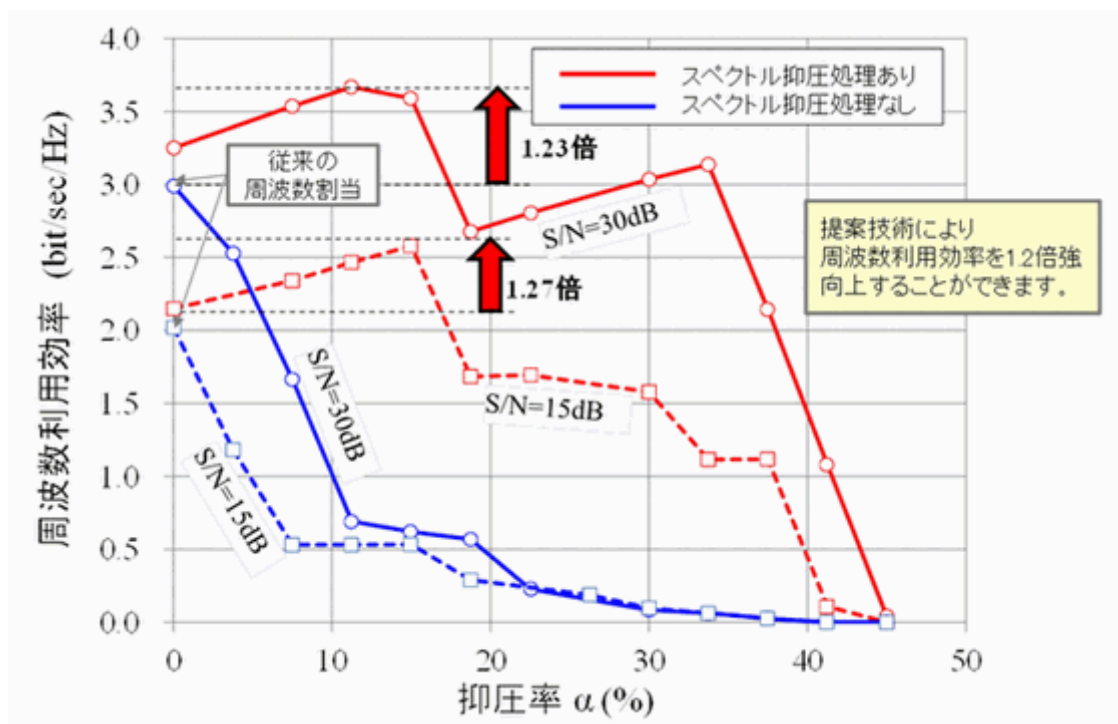


図2 計算機シミュレーションの結果